

令和7年度 第3回 神奈川県立鎌倉高等学校 学校運営協議会 議事録

1. 日時

令和8年3月10日（火） 15時00分～16時40分

2. 場所

神奈川県立鎌倉高等学校 大会議室

3. 出席者

- 委員：田邊克彦（会長）、加藤俊志、齋藤貴、高木亮、菅野喜八、佐藤弘一、岡田雅彦
- 欠席：牛見誠人
- 事務局：佐藤文美、林孝弘、石塚隆夫、伊藤剛、佐藤晴彦、石川比呂子、良田直優、永山悦子、柴田克也

4. 議事

1 校長あいさつ

- 先週、350名の卒業生を送り出した。
- 卒業・入学ともに9クラスであり、次年度学校全体のクラス規模に変動はない。
- 本日は学校評価報告書の最終確認を中心として、忌憚のない意見をいただきたい。

2 協議

(1) 令和7年度学校評価報告書（実施結果）について

- 視点1：教育課程・学習指導（授業改善・SSH）
 - 報告（教務・学習企画）
 - 授業評価アンケートにおいて、最高評価「4」の回答割合が50%以上の目標を達成したのは11教科中3教科（家庭・情報等）であった。第1回と比較して7教科で評価が向上しており、今後も好事例の共有を進める。
 - SSH指定初年度として、広町緑地でのフィールドワークやデータ分析を実施した。3月12日にはポスター発表会を開催予定である。
 - 科学研究会がSSH予算を活用し、沖縄での「かまくらぼサイエンストリップ」を実施した。卒業生が経営する企業での藻場再生研修やOIST（沖縄科学技術大学院大学）での講義受講など、最先端の体験を提供した。
 - 課題として、ホームページ等を利用した外部（特に近隣中学校）への広報不足が挙げられた。
 - 質疑応答・意見

- 加藤委員：課題研究のテーマ設定や、全校体制での指導体制、教員の負担感について質問。
 - 学校側回答：1年次の早い段階からテーマ選定を開始し、文理融合の観点から専門外の教員もメンターとして関わる体制を構築している。これは教員の指導力向上にも繋がっている。
- 視点2：生徒指導・支援
 - 報告（生徒会・生活指導）
 - 学校行事の事後アンケートでは、主体的な参加ができたとする回答が9割を超えた。
 - 夏の酷暑への対応として、次年度はスポーツ大会を6月初旬へ、文化祭（鎌高祭）を6月下旬へ前倒しする日程変更を行う。
 - 「かながわ子どもサポートドック」の活用が浸透し、継続的な生徒支援が可能になった。昨年度よりも支援対象（プッシュ型面談等）として把握する人数が増えており、支援の手がより細かく行き届くようになった。
 - 江ノ電の利用マナーや SNS 利用に関する指導を今後も徹底していく。
- 視点3：進路指導・支援
 - 報告（キャリア）
 - 生徒と志望校のミスマッチを減らすため、「第一志望宣言」において大学で何を学びたいかまで明確に記述させている。
 - 指定校事業予算を活用し、東北大学の講師を招致するなど、生徒の視野を広げる取り組みを強化した。
- 視点4：地域等との協働
 - 報告（生徒会・管理）
 - 吹奏楽部や弦楽部が地域での演奏活動を継続している。
 - 防災面では、津波避難場所としての運用を確認した。一次対応は学校職員で行い、市職員の到着後に引き継ぐ想定で計画を検討している。
 - 補足（委員）
 - PTA 会長より、部活動の集合写真撮影時などの連絡体制について課題提起があった。
 - 同窓会（うしお会）より、学校側の要望に応じた柔軟な支援を継続したい旨の申し出があった。
- 視点5：学校管理・学校運営
 - 報告（管理）

- 活動実態のない委員会の廃止や仕事の削減など、業務の効率化を推進している。
- ICT を活用した連絡ツールの整理を進める。
- 校内整備として、正門のアルミ門扉化や、老朽化した防球ネット支柱の改修工事を実施した。

3 報告・連絡事項

- 令和8年度入学者選抜状況について:募集定員 359 名に対し受検者 433 名、倍率 1.21 倍であった。私学無償化の影響等による志願者減少傾向について意見交換がなされた。
- 学校運営協議会委員の任期について:次年度の組織継続等について確認した。
- 令和8年度年間計画について:前述の行事日程変更を含む計画案が提示された。